

■ 令和6年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会

第1回幹事会

■ 日時 令和6年8月5日(月) 16:00~18:00

■ 場所 四日市商工会議所 3階大会議室(オンライン併用)

■ 出席者

(有識者)

村山顕人(オンライン)、松本幸正、有賀隆(オンライン)、

(交通関係者)

佐脇健介(代理、オンライン)、小瀬古恵則(代理)、伊藤眞郷

(商工関係者・大規模権利者・事業展開企業)

伊藤和泉(代理)、木室康弘(オンライン)、山下二三夫、

鈴木主計、北畠肇、今井健太(随伴、オンライン)、吉田健(オンライン)、安達勝也、山本龍太郎(随伴)、
脇内一仁(代理、オンライン)、黒木信彦(オンライン)、白江真二(随伴、オンライン)

(行政)

岡田健(オンライン)、下村満広(随伴、オンライン)、左橋直也(随伴、オンライン)、

上林莉緒(随伴、オンライン)、舘英次

(賛助会員)

中村出、小松萌(オンライン)、福田泰之、小出優(随伴、オンライン)、島田真安(随伴、オンライン)

(オブザーバー)

国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官 崎谷唯比古(オンライン)

国土交通省 都市局 街路交通施設課 係長 本田悠馬(オンライン)

国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室 都市交通係長 檜林哲也(オンライン)

国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長 後藤直紀(オンライン)

国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 専門官 田中秀和(オンライン)

国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 首席運輸企画専門官 小島光洋

■ 次第

1. 開会

2. 議題

- ・議決事項 第1号 令和5年度歳入歳出決算について
- ・議決事項 第2号 幹事会会員の変更について
- ・議題 第1号 今年度スケジュールについて
- ・議題 第2号 令和5年度補正・令和6年度スマートシティ実装化支援事業について
- ・議題 第3号 スマートシティ実装化支援事業の進捗状況報告
- ・議題 第4号 ワーキンググループ(WG)の実施報告
- ・議題 第5号 その他報告事項について

3. 閉会

■ 内容

【1. 開会】

<進行>

本日は、ご多用中にも関わらずご出席いただき、ありがとうございます。ただいまから「四日市スマートリージョン・コア推進協議会」の令和6年度第1回幹事会を開会致します。

本日の会議を進行させていただきます、四日市市政策推進部政策推進監の櫻井です。よろしくお願い致します。はじめに、お手元の資料をご確認ください。全部で9種類の資料と2種類の別添資料をお配りしています。過不足ありましたら、挙手にてお知らせください。

それでは冒頭挨拶として、協議会会長である館副市長より一言お願い致します。

<館副市長>

皆さんこんにちは。四日市市副市長の館でございます。本幹事会の会長を務めさせていただいております。本日はどうぞよろしくお願い致します。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。またオンラインでもご参加いただいております。今年度第1回目の幹事会ということでございます。どうぞよろしくお願い致します。議事次第にもございますが、議決事項が2項目で歳入歳出決算など、それから議題として第5号まであります。スマートシティ実装化支援事業、国の補助事業の内容、ワーキンググループの実施報告などもございます。どうぞよろしくお願い致します。

ちょうど昨日、一昨日と大四日市まつりを開催させていただきました、たぶんこの中にもご参加いただいている方いらっしゃると思いますが大変暑い中ありがとうございました。2日間で23万人の方に来ていただきました。これは定点で測っております主催者発表ですが、やはり暑かったせいか昨年よりは1万人少なかった。その中、シー・ティー・ワイさんで生放送していただきまして、これはケーブルで生放送していただいたのですが一部5Gを使用した生放送を実験的にやっていただいた。上手くいったということを社長が来てご報告いただいております。ありがとうございました。そういったこともこのスマートリージョンで整備した一部を使っただいて、本当にありがたいと思っております。中央通りの整備もご承知のように西側は完成致しました。東側は円形デッキの形が段々見えてまいりまして、いよいよハードの方が着々と進んできております。そのなかでスマートリージョンのソフト面も西側のカメラであるとか或いは環境センサーなどを設置させていただいて、その活用が今後の大きな課題になってまいります。これらを含めましてスマートリージョン・コアの協議会の中で充分議論をさせていただいて、どんどんいいものにしていきたいと思っております。本日も忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

<進行>

ありがとうございました。続きまして本来であれば、ご出席の委員、企業、団体の皆様のご紹介をさせていただきたいところではございますが、時間の関係もございますので、別添の出席者名簿に代えさせていただきます。よろしくお願い致します。尚、学識の有賀先生につきましては遅れて参加されると承っております。ご了承いただきますようお願い致します。

【2. 議事】

<進行>

本日の議題は、はじめに四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る議決事項を予定しております。

続いて、今年度のスケジュールの確認と令和5年度補正予算、令和6年度スマートシティ実装化支援事業の採択報告、実装化支援事業の進捗、ワーキンググループの実施状況についてご説明させていただきます。

最後に、その他報告事項として、四日市市まちづくりハッカソンについてご説明させていただきます。

ご質問やご意見を頂戴する時間は、議題ごとに適宜設けさせていただきます。それでは早速ですが、最初の議題を進めさせていただきます。四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る令和5年度収支決算についての議決事項でございます。

<四日市政策推進課>
資料1に基づいて説明

<進行>

続きまして令和5年度監査報告につきまして、監査委員であります、四日市商工会議所の山下様よりいただき
たいと思います。お願い致します。

<四日市商工会議所>
資料1(令和5年度 監査報告書)に基づいて説明

<進行>

ありがとうございます。本件に関してご質問がある方は挙手にてお願い致します。よろしいでしょうか。また後
程質疑の時間を取らせていただきます。

<進行>

続きまして次の議決事項について説明をさせていただきます。続いて、同じく四日市スマートリージョン・コア推
進協議会に係る幹事会会員の変更についての議決事項でございます。

<事務局>
資料2に基づいて説明

<進行>

本件に関してご質問がある方は挙手にてお願い致します。
よろしければ、議決事項1につきまして本協議会規約第7条第5項の規定に基づきご承認をお願いしたいと思
います。議決事項1、令和5年度歳入歳出決算につきましてご承認頂ける方は挙手をお願い致します。

<会場>
挙手確認

<進行>

ありがとうございます。続きまして、議決事項2、幹事会会員の変更につきまして、同じく本協議会規約第7条第
5項の規定に基づき、ご承認をお願いしたいと思います。ご承認いただける方は挙手をお願い致します。

<会場>
挙手確認

<進行>

ありがとうございます。両議決事項につきまして会員総数の過半数を超えるご承認をいただきましたので、原
案通りの議決とさせていただきますと存じます。議決事項については以上となりますので、続いて報告事項に
移ります。ここからの進行は座長をお願いしたいと思います。村山先生どうぞよろしくお願い致します。

<村山先生>

はい。承知いたしました。オンライン参加で恐縮です。まず初めの議題は、令和6年度のスケジュールについての
確認です。詳細のご説明は㈱日建設計様よりお願い致します。

<日建設計総合研究所>

資料3に基づいて令和6年度スケジュールの説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。スケジュールについてご意見やご質問のある方は、挙手のうえご発言願いたいと思います。いかがでしょうか。

無いようですので、次の議題に参りたいと思います。次の議題は、国土交通省都市局公募の令和5年度補正、及び令和6年度スマートシティ実装化支援事業の公募結果、及び実装化支援事業の進捗の2件についての報告です。詳細のご説明は㈱日建設計様よりお願い致します。

<日建設計総合研究所>

資料4に基づいて説明

<日建設計>

資料5に基づいて説明

<村山先生>

大変丁寧な説明をありがとうございました。

では、令和5年度補正・令和6年度スマートシティ実装化支援事業について、そしてスマートシティ実装化支援事業の進捗について、ご意見やご質問ある方は挙手の上ご発言をお願い致します。

いかがでしょうか。はい、松本先生お願い致します。

<松本先生>

名城大学の松本でございます。ご説明ありがとうございました。まず一つ具体のところからお聞きしたいと思いますが、今年度新しい実験で災害時を想定した即時的な情報提供というのが行われるということで、これはスマートリージョン・コアにとっても、また、中央通り再開発にとっても非常に重要なところだと思っております。災害のリスクがあるところでの整備ということですので、やはりソフト対策としては非常に重要な施策と思っております。ただ、内容がこれだけでは少し分かりにくいので具体的にどんな実験を実施しようとしているのか、もし分かれば教えていただければと、まずそれをお願いできますでしょうか。

<村山先生>

事務局からお願いします。

<事務局>

これは実際に行われるシー・ティー・ワイさんからよろしいですか。

<シー・ティー・ワイ>

シー・ティー・ワイの山本でございます。ご質問ありがとうございます。

災害時の情報ということで、実験しているときに本当に災害が来るかどうかはさておき、防災の情報をいち早く、市民やサイネージの近くにいる方々に伝えることは非常に大事なところと思っております。実験のタイミングでは災害は起こっていないと思いますので仮説にはなりますけれど、何か特別警報がでましたという情報が来たらサイネージにその情報が表示されるというような運営をさせていただきたいと思っております。四日市市さんにおいては市民の方々に災害時の情報が発信される時には、登録された方々のスマホや携帯に情報が届くようになっておりますので、デザインは今考えているところですが、同じような情報が町中にある方々に届くような運用にしたいなと思っております。以上になります。

<松本先生>

はい、ありがとうございます。そうするとどちらかというと、データの連携と、稼働がうまくいくかどうかを調べたい

ということですね。

<シー・ティー・ワイ>

そうですね。

<松本先生>

市の持っている災害情報をシー・ティー・ワイさんのシステムに取り入れて連携をして、そして街中の各種情報提供装置の方へ送ってみるという。その連携の確認ということですね。

<シー・ティー・ワイ>

そうですね。

<松本先生>

はい。分かりました。そうすると地震だとか水害だとか、いろんな災害の情報が市の方に入ると思いますので、まずはそこでやっていこうということですね。ただ、実際にはやはりそれぞれの災害によって、誰にどういう情報を出すべきかが違ってきますので、まず連携がうまくいくようになったら、次のステップでもう少し実用的なところまで踏み込んでもらうとよいと思いますし、必要な情報に対してデザインも全然違うと思いますので、情報の専門家だと思いますので、そういう場合にふさわしい情報を出していただけるといいなと思っています。要は市民が受け取るのと来街者が受け取るのとも全然違うと思いますので、そういったところも考えてもらうといいと思いました。

それからもう一点ですが、全体としてということでお話しますと、このロードマップに従って進めていただいているという話は分かりました。それから今年度また何をやるかということでご説明いただいて、さらにKPIも含めてどのように検証していくかということも分かったのですが、令和5年度にやられたことに対する評価と、それが令和6年度にどう繋がったかというのがここから少し分かりにくかったんですが、個別に説明してくれとは言いませんが、多分、この資料に現れない中で、そのような形で進んでいると思いますので、ちょっとその補足をいただけますか。

<村山先生>

はい。これは事務局からお願いします。

<事務局>

はい。ありがとうございます。

令和5年度の実験結果については、昨年度末の幹事会でも一旦ご説明をさせていただいております。それに基づいて令和6年度にそれらの課題を解決する、より実装に繋げていくという方向で、今取り組んでいるところでございます。個別の話をご私の方で概要を申し上げまして、各事業者様から補足がございましたらお願いしたいと思います。

<松本先生>

個別はいいので全体としてどうやったかフレームだけお話をください。

<事務局>

はい、その意味では、大きくAIカメラを設置してデータを集めたという事業が①になります。それを実際にどう使っているのかという意味では、実装に向けて今回デジタルサインージで流したりそれに向けた取り組みをしていこうというのが利活用活性化ツールです。次に②四日市版MaaSも昨年度一回デジタルスタンプラリーをやりましたがなかなか利用者が増えないということが課題でしたので、利用者を増やすためによりインセンティブを高めていこうというのが今年度の取組です。あとは③バーチャル空間におけるコミュニケーションツールも、昨年度は基礎的調査を行いましたので、今回は実際に空き店舗などを利用する人と使わせる人との間をマッチングさせるための実際のシステムを作っていくということになります。④3D都市モデルのデジタルインフラ台帳

についても昨年度、非常に限られたエリアのモデルを作りましたけれども、今回はより広げていくということと、実際に使う人のニーズも踏まえつつ、より良い使い勝手の良いものにしていこうという意味では全般的には令和5年度にできなかったことを来年度の実装化に向けて深度化しているというのが全体的なフレームになります。

<松本先生>

はい、わかりました。要は、令和5年度に実験しました、そしてその結果をちゃんと評価して、その評価結果に基づいて今年度の事業を、ロードマップ通りでない部分もありますが、必要に応じて評価の結果を反映させた形で、今年度もこの事業が計画されているという、そういう理解でよろしいですね。

<事務局>

はい。

<松本先生>

はい、わかりました。ありがとうございます。まあ、そういう意味では今年度もKPIも含めて色んな効果を検証されるので、その検証結果を受けて次の事業へ反映してもらおうという、やはりこのPDCAを回していくということが大事だと思いますので、そういう形でより良い方向に進んでもらえればいいかなと思いました。以上でございます。

<村山先生>

松本先生ありがとうございました。他にいかがでしょうか。挙手をせずに発言していただいて結構です。よろしいでしょうか。はい。また、最後に時間があれば意見交換を設けたいと思いますので。次の議題にいきたいと思います。

次は議題4のワーキング実施報告です。前回の幹事会以降に各WGで実施された会議の内容を報告していただきます。それぞれのWGの代表企業様からご説明いただこうと思いますので、はじめにデータプラットフォームWGの代表であります(株)シー・ティー・ワイ様からお願い致します。

<シー・ティー・ワイ>

資料6に基づいてワーキンググループ(WG)の実施の報告

<村山先生>

はい。どうもありがとうございました。続きましてモビリティWGの代表であります(株)マクニカ様からご説明をお願い致します。

<マクニカ>

資料7に基づいてワーキンググループ(WG)の実施の報告

<村山先生>

はい。ご説明ありがとうございました。それでは2つのワーキングの実施状況についてご意見やご質問がある方はご発言お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私から1点よろしいでしょうか。データプラットフォームWGですけれども、ソフト面の検討ということで、実際に収集されたデータに基づいて地域課題の解決策についてアイデアを出していくということで、とても重要な取り組みだと思います。それでお聞きしたいのはエピソード作りのところで、商店街と公園をフィールドとして具体的な場面を想定して解決策を検討するということですが、これを検討するのはワーキングのメンバーのみでしょうか。それとも例えば店主の方とか商店街組合の方、或いは公園の管理者の方も含めて、もう一度大勢で集まって議論する感じでしょうか。

<シー・ティー・ワイ>

ありがとうございます。シー・ティー・ワイでございます。

ご質問ありがとうございます。先ほどおっしゃっていただきましたように、この12月にいろいろなメンバーが呼べたらなというところがあります。それまでに少しオンライン上で皆さんと会話をしながら準備立ても考えていきたいなと思っております、その中に検討するメンバーが、例えば商店街の店主さんと呼んでほしいとかもう少しこういう会社さんと呼んでほしいという声を聞きながら、少し参加していただく方を呼びかけようかなということで、今考えているところでございます。

<村山先生>

そうですね。ありがとうございます。やや思いつきですけど、最近とても暑いので、ここで取れた環境データと人流データを見ながら例えば市役所の環境部局とか、健康の担当部局の方とかにも来ていただいて熱中症対策をどうするかといったことも具体的にデータに基づいて議論できるのかなと思ってお聞きました。例として幾つかの登場人物等を書いてありますが、他にもたくさん出てくるかもしれないのでフレキシブルにその辺は考えていただけるといいんじゃないかなと思いました。

<シー・ティー・ワイ>

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

<村山先生>

はい、他にいかがでしょうか。

はい。松本先生お願い致します。

<松本先生>

名城大学の松本でございます。

このハッカソンも含めて面白い取り組みがいろいろあって、また自動運転バスも走ったり、四日市版MaaSも作られるというので、如何に市民の方々に知っていただくのかというのが重要だなと思っております。これは前もお話したと思っておりますが。あと、僕は大四日市まつりに出たことが無いのですが、その場でこのスマートリージョン・コアの取り組みというのは何か宣伝されたんですかね。

<副市長>

そういう場面はなかったと思います。いろんな事業についての話は市長がどこかでされたりしているのですがスマートリージョン・コアについては言っていないのではないかと。

<松本先生>

なるほど。ちょうど中央通り再編なんか見てもらえてるんですよ。ああいう風にならなくて期待もたれていると思うんですよ。一方でこういうスマートリージョンの取り組みなども市民の方々に期待してもらってすごい大事だなと思っております、そういう意味では大四日市まつりでこんなことやってるんだということをお示しするような場があると良かったと思います。ただそういう目で見てみると、市民の方々にとっての期待はどこかなという、どれを売ろうかと思うんですね、いいのはあるんだなと思いつつみんなちょっと料理の仕方がまずいなあという気もしなくもないんですよ。先程から言葉として3年間の事業だ、3年間の事業だという言葉がいくつか出てきているんですが、じゃあその後どうなるんだろうと。この補助がなくなった時ちゃんと独立できるんだろうかというところが何となく見えてこないんですが、ちょっとその辺ですね。例えば自動運転、特に僕はモビリティ専門なので、自動運転あるいはMaaSについてなんですが、これ着地点ってどんな感じなんですか。どうお考えですかね。マクニカさんいかがですか。

<マクニカ>

着地点は民間もしくはMaaSのオペレータとこれから呼ばれる民間企業さんがアプリを提供して、それを住民の方が利用できることが一番望ましいと思いますけれど、今、日本各地で自治体さんが主導でやるMaaSと民間

間企業がやるMaaSと両方あると思ってまして、最初は自治体さんがやりながら民間に渡すケースもありますから、今どちらがいいのかというのは今年度来年度を含めて、関わっている皆さんと議論をしながらやっていければと思っています。というのは、四日市市ではバスタもできますからそのバスタも一つの施設としてコンテンツだと思っています。そうするとバスタはバスタでコンソーシアムができていますので、その中でこの四日市版MaaSという形で提供するのがいいのか。そうすると特定目的会社が提供するMaaSになるんですけど、いろんなパターンがある中でどれが最適なのかというのを今年度来年度で議論していきたいというのが私の今の考えです。

<松本先生>

はい。あのやっぱりそこを考えないといけないなと思ってまして、それを考える猶予をくれているのは、この補助事業の3年間だと思うんですね。だからそこに胡坐をかいては駄目でそこに向けてやっておくべきことをしっかり整理して、お金があるうちに検証して補助が終わった時には独立立ちができるよう、いろんな取り組みが今できるはずなのでぜひ頑張ってもらっていただくという気が致しました。はい。いずれにしろ市民の方々が期待が持てる。皆さんこういう事業を考える時にどんな期待を持っていくのか、市民の方をどうわくわくさせるのかという気持ちを持ちながら是非考えてもらいたいかなと思います。以上でございます。

<村山先生>

はい、どうもありがとうございます。他にWGについていかがでしょう。よろしいでしょうか。それではもしなければ次の議題に移りたいと思います。議題5のその他報告事項について、議題としては最後になりますが、その他報告事項として、四日市市まちづくりハッカソンについて、デジタル戦略課の林課長からご説明をいただきます。よろしくお願い致します。

<デジタル戦略課 林課長>

資料8に基づいて説明

<村山先生>

はい、ありがとうございました。

今の内容についてご質問ご意見等がありますでしょうか。

私から1点質問なんですけど、とても楽しいイベントだと思います。データやプログラムに強い方に参加していただいて収集したデータを活用できると思います。一方で地域課題の方を提示することも重要なことかなと思います。このイベントにおいて地域課題は誰がどのように提示していくのでしょうか。

<デジタル戦略課 林課長>

はい。林でございます。ありがとうございます。

具体的にはまだ詰めている段階ですが、8月24日にワークショップを開いて参加していただいた方に対して適宜テーマをお出ししながら、テーマに沿ってある程度の方向性を探って頂きながら、短い時間ですが作って頂こうと思っています。

<村山先生>

はい、分かりました。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では以上で議題5つ終わりましたので、全体を通してのご質問ご意見ございましたら今この時間に意見交換できればと思います。何かご意見ご質問ございましたらよろしくお願い致します。

もしよろしければまだ時間がありますので、お一人ずつお話をうかがおうかなと思うのですが。まず三重交通の小瀬古様いかがでしょうか。

<三重交通>

三重交通です。お世話になります。今日は代理で小瀬古の方が参加をしております。私共、WG両方入らせていただいております。特にモビリティは先ほどお話あったバスタ四日市の関係もありますので特に注力して今後

進めていきたいと思っております。また、皆様のご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。以上です。

<村山先生>

ありがとうございました。続いて席順にいきますが、三岐鉄道の伊藤様いかがでしょうか。

<三岐鉄道>

はい。三岐鉄道の伊藤でございます。私共も三重交通さんと同じくWGに入らせていただいております。スマートシティ実装化事業にもご協力させていただいております。今年も自動運転の実証実験をやるということでそれにご協力をさせていただこうと思っておりますし、今後令和7年、令和8年と実装の形で自動運転バスが進んでいくのも興味がありますし、バスタの方も令和9年を目途に開業するしそこにも力を入れていきたいと思っておりますし、令和7年度には、弊社は現在参加させてもらっていないMaaSについてバスロケの方も参加させていただきたいと思っておりますのでまた、皆様ご協力をお願い致します。以上です。

<村山先生>

ありがとうございました。続きまして国土交通省中部運輸局小島様お願い致します。

<国土交通省中部運輸局>

国土交通省中部運輸局三重運輸支局の小島と申します。今年度から参加をさせていただいております。よろしくお願い致します。

感想めいた発言になってしまいますけれども、モビリティワーキング部会の四日市版MaaSについて記載がございます。やはり利用者として想定される方々にこの四日市版MaaSというものがあるんだよと、こんな機能があって、例えばお得な使い方ができるんだよみたいなことを知っていただく、周知が大事になってくるかなと。昨年度もしていただいていると思うのですが、今年度も周知をまずはしっかりしていただいて、まずはご自身のスマホにアプリを入れていただく。そこから実際に使っていただくということになるかと思っておりますので、運輸支局の方も一般の方向けに広報とかがなかなか難しいところがありますけれども、そうした広報ですとかそういったご協力できる部分があれば、ご協力させていただきたいなというふうに思います。以上です。

<村山先生>

はい、ありがとうございました。続きまして学校法人みえ大橋学園の伊藤様よろしくお願い致します。

<学校法人みえ大橋学園>

大橋学園の伊藤でございます。元々私共の会長の大橋は、自動運転とかデジタル化というのをまちで起こしていくことでまちに力が出てくると、我々専門学校も、商売として動いていくというようなところから参加させていただいております。今回別方面から、実は専門学校、調理学校の生徒が考えた昼のランチをキッチンカーで出せないかという話がありました。例えばそういうことを我々学校が考えた場合に、先ほどのデータプラットフォームの人流というデータを上手く分析をして、例えばお昼の12時から1時の1時間に建物から人が出てきて、どこへ歩いていくか。これがまた面白いんですけど、人気の中華料理屋さんとかラーメン屋さんが休みの日はまた違う流れに変わる。そのように、人がどれぐらい動いているかによって弁当がここで売れるんじゃないかというのが見えてくると、キッチンカーの特徴は移動できることですので売れるところへ持って行ってやってみるということが実はできるのではないかと。そういう意味でいくと先ほど松本先生がおっしゃったように、こうやってお金かけてやっている中で僕らも民間ですのでこうやって公共事業で一生懸命やっていただいた後、民間の商店とか商売人がどれだけ儲かるのか売上が上がるのかというようなところが、非常に我々としては気になる場所ですね。やって終わりでは困るので、これを作ったことで新しい商売ができるようになったとか、しっかり儲けさせていただいたというようにところへ繋がられないかなという見方ですと参加をさせていただいておりますので、今後とも一つどうぞよろしくお願い致します。

<村山先生>

はい。ありがとうございます。具体的なキッチンカーのアイデアもいただいてぜひそういう実験とかもしながらデータ活用できればいいなと思いました。

続きましてディア四日市の鈴木様お願い致します。

<ディア四日市>

私共は来年早々にはバスタ四日市の新しい管理会社を作る訳でございますが、それに合わせてお話をいただきました。どのように絡ませていくか、そしてどのように私共の新しい会社を作りながら利用というと少々おかしですが、何か私共の会社に、まだいろんな組織ができておりませんが、今おっしゃったお話がどのように絡んでいくかというのが本当にこれから楽しみだなと。また、私共の会社をどのように組織を使いながら、現在のお話がありましたいろんなことを利用しながら、私共の新しい管理会社を作りながらやっていきたいとこのように思うわけでございます。

とりとめのないお話になりましたがまだ何もできておりませんので、どのようにしていいのかまだ分かっておりません。今のお話の内容もどのように絡ませていくかということもちょっと難しいなと思いますがやっていかなければならないと思っております。とりとめのない話ですみません。

<村山先生>

どうもありがとうございます。

それでは近鉄グループホールディングスの北畑さんよろしくお願い致します。

<近鉄グループホールディングス>

近鉄グループホールディングスの北畑でございます。

近鉄グループもこのようにデータプラットフォームを構築して、ご利用のお客様とか沿線の自治体様とどういことができるか考えているところですけども、先ほど松本先生がおっしゃったようにどういう人がどうやって使うのかということを中心にちゃんと想像しながら作るということが大事だなと思っております。うちの会社も(データプラットフォームを)作るようになってしまって、それがその後どういうふうに活用するかというシーンとか、シチュエーションが見えないままハードづくりやデータ収集に必死になっているところもあります。またその辺り、四日市市さんの動きも見ながら私共の会社で作っているデータプラットフォームも活かしていけるようにできたらと思っております。以上です。

<村山先生>

はい、ありがとうございます。それではシー・ティー・ワイの安達様お願い致します。

<シー・ティー・ワイ>

シー・ティー・ワイの安達です。

データプラットフォームWGの管理会社ということでやらせていただいていますけれども、データは昨年度から収集を始めて、データはずっと取れば取るほど質が高まるというか、精度が上がるといような性格のもので、またいろんなデータを組み合わせることでデータの価値が上がるということになりますので、そのあたりの分析スキルですとか、そういったものを含めて高めていくというのが大事だろうと思います。先程からアドバイスをいただいているように、それは作る側の目線だけではなくてやはり市民の方、それから商店街の方ですね、この街に関わる方々のためになるもの、そういった目線で作るという風に取り組んでいくということを改めて今日強い気持ちを持ちました。

それと途中でご指摘がありましたように、今ある課題ですとか、今後どうしていくのかということも市民にどう見せていくんだということにつきましては、地元のテレビ会社として、テレビですとかFMですとか、いろんな媒体を持っておりますので、そういったところでも地元の企業として役割を果たしていきたいと思っております。

<村山先生>

どうもありがとうございます。それでは日建設計の中村様お願いします。

<日建設計>

日建設計の中村です。説明にありました通り、昨年度に引き続き我々デジタルインフラ台帳を整備していくということで昨年度は10m×10mという非常に狭い範囲でインフラ台帳を整理したんですけれども一旦課題は見えてまいりましたので、それをまず埋設物事業者様に見ていただいて、一緒にどのように有効に利用していくのか、おそらく今ある状態よりもっといい状態もあると思いますので、そのためにどういう情報を付加したらいいのか、どういうふうな仕様環境を整えたらいいのかを伺いながら、今年度中にインフラ台帳の仕様をある程度に高めていきたいと考えております。そこをベースにして多少広い範囲で今回デジタルインフラ台帳を整備させていただきますので、そこを埋設物事業者さんに利用していただくという他にも、設計者の方や不動産事業者の方にも見ていただいて、そういうデジタル台帳というものがまだ世の中にはっきりしたものがないと思いますけれども、そういうものが整備された時に、どのような活用ができるのか業務の効率化ができるのかということも今後皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。来年度またさらにデジタルインフラ台帳の整備区間を拡げて実装に向けて有効なものにしてきたと思いますので、また皆様にご協力いただくことがあるかと思いますがよろしくお願い致します。以上になります。

<村山先生>

はい。ありがとうございました。

はい、それでは司会を事務局にお戻ししたいと思います。よろしくお願い致します。

<事務局>

はい。村山先生、ありがとうございました。

それではもしよろしければ、全体を通してご参加いただいている先生方に改めてコメントをいただければと存じます。最初に松本先生からコメントを頂けますでしょうか。

<松本先生>

先ほど言いましたので繰り返になりますが、市民目線というのを大事にしたい。皆さん一生懸命しっかりやっていると聞いています。さらに市民目線で市民の皆様がワクワクする期待が持てるような、そしてそういうことに対する情報発信も忘れずにしていただければなと思っております。そういう意味では、今SNSの時代で、特に若い人が中心ですが情報をいち早くキャッチするので、いい情報が入ったらすぐ広まていきますのでそういう意味ではやりやすいかもしれませんが逆にやりにくいかもしれませんが、いろんな媒体がありますので是非そういう形で多くの方々に巻き込んでいただいて、多くの方々が関心を持っていただく。結局市だけ、あるいはこの協議会だけで、やっても盛り上がっていきません。やはり地域の方が賛同してくれないと盛り上がってこない。是非そういう視点を持っていただければと思っております。それからMaaSに関してなんですけど、四日市版四日市版と言われてますけど、四日市版のMaaSって誰が使うのかなんというのを想定するともう少し範囲が大きい方がいいのかもしれないし、或いはもっと全然違うやり方があるかもしれませんがそういうのを、四日市版をずっと貫くのか或いは違った形で攻めていくのか、その辺をこの国の補助があるうちに、各交通業者さんだけではやれないことをやっておくというのも一つなのかなという気もしておりますので、これも事業者の方、市民の方々がワクワクするということに繋がるかなと思っておりますので是非そういった検討をお願いできればと思っております。以上でございます。

<事務局>

ありがとうございました。次に、有賀先生コメントをお願いできますでしょうか。

<有賀先生>

はい。どうもありがとうございます。

各ワーキンググループの進捗状況も含めてご説明いただいてよく分かりました。全体を通してということなので、少しそういう観点からコメントをさせていただきたいと思えます。国交省さんの実装化事業をいただいてからは2年目ということになりますけれども、スマートリージョン・コア、市独自の取り組みとしては、中央通りの再編という片や都心のインフラの再編整備と並行する形で進んできているということで、2024年度にはハードの方

は先行整備も進んできているし、それからバスタ、それからPark-PFIも含めてですが将来どのようなエリマネ、或いは施設管理運用をしていくかという姿が少しずつ見えてきているということもあって、そういう意味ではとても両者がパラレルだったものがきちんとこう一つの線路に繋がっていくような、融合というか相乗効果を出すというか、そういうようなタイミングにちょうど差し掛かりつつあるんじゃないかなと考えていますので、とても大事な年度だなというふうには思います。

その中で大きなビジョンとしては、やはり中心市街地のエリアに、ここにやはり大きな公共投資をしていくことを、これはあくまできっかけとしてなんですけども、そこからやはり大きなビジョンとして、港の活動、あるいは港の都市的な土地利用も含めた将来のまちづくりとの連携を繋いでいく大きな起点になっていく、あるいはその方法になっていく意味でのスマートリージョンというのはとても大事だし、それから他方、西の方に目を向けるといわゆる郊外の方、郊外のライフスタイルが様々に変わってくる中で、じゃあ町の中と郊外とをちゃんと繋げるような四日市の住まい方、居住スタイル、ずっと住み続けられるような都市イメージ、都市の空間像や社会像を作っていくということも、やはり大きなビジョンとしてスマートが求められている大きな課題だと思うんですね。だからそういう意味でそれぞれのワーキングやそれぞれ実装、実証実験でKPIとして出されていることというのは、もちろんそれを実現していくプロセスの中にきちんと組み立てられているのでとても大事なんですけど、やはりその全体を通した時にKGIと言ってしまってもいいかわからないですが、最終目標をどういう大きな俯瞰像を持つのかということも常に振り返りながら、そこに繋げていくということをも自分のポジションを確かめていくということも含めてやっていくことが必要かなと思っています。

もう一つ私の立場という意味で言うと、今日もご説明いただきましたけれども、沿道の空間利用マネジメントのシステム構築というところでも私は関わっているので、事業③ということになるんですけども、昨年度末にはまずは中心市街地で顔の見える担い手の人たち、商店街組織の皆さんとかまちづくり組織の皆さんと、試行としてどんなようなデータ、情報、意味情報ですね、客観情報というか意味情報なんですけど、意味情報をどんな形で蓄積したり、あるいはそれをサービスとして提供していくのが一番使いやすいかというのを少しワークショップ形式で顔の見える担い手の人たちとの意見交換、ワークショップを踏まえて試行版というか先ずは枠組みを検討したということから、今年度はそういうものをベースにしながらやはりまずは中央通りの公共的な街路空間、それからその沿道の空間、民間の空間も含めてということとなりますが、諏訪栄のエリアの空間、そういうところの例えば公共空間でも民間の利活用を進める、逆に言うと、民間の低未利用空間でも社会的な空間利用を進めることによって、やはりなかなかリアルでは公民の境界があるところを、スマートリージョンのマッチングのいろんな仕組みを作ることによって中心市街地全体が本当に利活用の多様性を生み出していくためのフィールドになっていく。そういうことがスマートリージョンの中でも、特にこの沿道の空間利用のマッチングというのは非常に大事な目標として考えており、そのことによって現実的にはまだ目の前に完全には出来上がっていない都市空間、都市環境、中央通りなんてまだまだ工事も時間がかかりますけれども、そういうものをやはり戦略的に事前に可視化をすることによってより実感的に情報サービス提供していくことで利活用を推進していくような、そういうようなアプリケーションの道具、ツールにしていくことがまちづくりの大きな支援になっていくこととなります。そういうことを少し大きな目標としながらも今年度はまずは二次元情報にはなっていくんだと思いますけど、二次元情報として、景観や環境や空間的な質情報、意味情報も可視化できるようなアプリを作りながら、出来れば今年度後半はそういうものの中から選択をしていって本当に3D化していくものについては少し取捨選択をしながら、同時に使いやすいアプリケーションにしないといけないということもありますので、あまりデータが重くなってしまえば使い勝手がよくないこともあるので、そういうことも検証しながら今年度の活動を進めていくということが、私のもう一つの役割でもありますけども、その観点から、今日の全体のお話でより横連携とか横串をさせるところも随分あるようにうかがいましたので、そこら辺を是非進めていきたいかなと思っています。はい、ありがとうございます。

<事務局>

有賀先生、ありがとうございました。最後に村山先生からコメントをお願い致します。

<村山先生>

はい。この事業でデータの収集と整備が進んで、一方では中央通りの再編整備が西側の区間からどんどん進んでいく中で具体的にこのスマートリージョン・コアのイメージが共有できてきたのかなと思います。データがど

んどん蓄積されると、それを見てどんどん新しいアイデアが浮かぶと思います。事業を企画していた当初では思い浮かばなかったことが出てきて、それが実は将来すごい可能性を持っているかもしれませんので、もちろん事業推進にあたっては企画の内容を大きく変えることは出来ませんが、細かいところは途中から出てきた新しい発想も取り入れて、ぜひこのスマートリージョン・コアを発展的に進めていければいいのかなと思いました。それが一つ。

それからこのグループはどうしてもデータの方から入っていくわけですが、一方ではスマートシティの難しさというのは、データとかの技術的なところが強い方と、それから一方まちづくりとかビジネスが強い方がいてその両方がうまく融合しないとうまくいかないですね。途中でも申し上げましたけれども、例えばハッカソンをする時にどのように地域のまちづくりの課題とか、ビジネスの可能性をプログラマーの人達に伝えるかというのが結構重要だと思うので、是非いろんな地域のまちづくりとか新しいビジネスを考えている人たちとも上手くコミュニケーションを取りながら、創造的な取り組みを展開できたらいいなと思います。引き続きどうぞよろしくお願い致します。以上です。

<事務局>

村山先生ありがとうございました。

いただきましたコメントにつきましては、当推進協議会として今後の取り組みに活かしていきたいと存じます。

【3. 閉会】

<進行>

以上をもちまして令和6年度第1回幹事会を閉会させていただきます。第2回幹事会についてはまた改めて事務局よりご案内させていただきます。本日は忌憚のないご意見をいただき、また進行にご協力いただきありがとうございました。

以上